



KYUSHU DESIGN CHARRETTE 2022 REPORT



九州デザインシャレットとは

九州デザインシャレットは、将来まちづくりや建設分野に携わる様々な専門分野の学生・若手技術者を対象に、実際のまちづくりの課題に集中して取り組む機会を提供し、専門家の指導の下で、異分野との共同作業を体験させ、現代の要請に適った人材を育成することを目的とする。

加えて、この体験を通じてその後も切磋琢磨しあえる仲間と出会い、その人的ネットワークが九州、全国に広がっていくことも、これからの九州、日本の美しい風景を守り、新たな文化価値を生むための大きな力となるはずである。

また、地元で進められているまちづくりの取り組みに対しての話題提供となることも期待できる。

*シャレットとは：シャレット（charrette）は仏語で「荷馬車」という意味です。仏の大学生が設計課題の提出日に荷馬車に図面を積んで学校に来る様子から、短期間に集中的に行う演習を意味するようになったと言われています。

テーマ 城下町くまもとのツボをデザインする

熊本市街地は江戸時代の町割りを今に残し、城下町の風情を現在でも感じられることが特徴である。一方で、元々が城を防御する都市構造であったため、現代の基盤としては歩行動線の連続性が分かりにくいなど、まちなかの回遊性に課題も抱えている。市街地のなかで最も人通りの多いアーケード街からは電車通りを挟んでいることもあり、熊本城とまちなかの人の流れが分断されてしまっている。

このようななか、2019年に開業した桜町地区市街地再開発事業、そして2021年に供用開始した花畑広場では、江戸時代の広小路であった道路を広場化することで人の流れをつくる空間を創出し、賑わいを生み出す利活用の運用も始められている。このように歴史的な骨格を現代的に解釈し直し、新たな機能性や活用策を導入する取り組みも参考としながら、人の流れや新たな利活用を喚起するような城下町くまもとの“ツボ”を刺激するデザイン提案を行うことが本演習のテーマである。

対象地と 演習課題 復旧復興が進む熊本城と花畑広場の間に位置する「熊本市民会館とその周辺の公共空間」



指導講師

ゲスト講師



吉村純一
プレイスメディア
ランドスケープアーキ
テクト



田中智之
熊本大学 教授
建築家



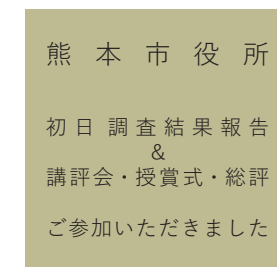
山下裕子
ひと・ネットワーク
クリエイター
広場ニスト



女鹿裕介
プレイスメディア



吉海雄大
益城町地域おこし協力隊



熊本市役所
初日調査結果報告
&
講評会・授賞式・総評
ご参加いただきました

風景デザイン研究会（風研講師）



柴田 久
福岡大学 教授



星野裕司
熊本大学 准教授



田中尚人
熊本大学 准教授



高尾忠志
地域力創造デザイン
センター



石橋知也
長崎大学 准教授



増山晃太
風景工房



尾野 薫
宮崎大学 講師



池田隆太郎
福岡大学 助手

プロセス

8/29 -Day.1-



会場の様子

13:30-



テーマ・対象地説明

14:30-



講師による現地解説

15:30-



各班での現地調査

17:30-



調査結果 VS 山下裕子

-21:00



広場の利活用@花畑広場

8/30 -Day.2-



【講義】ビジョン・コンセプト・デザインのつなげ方

10:00-



コンセプトメイキング

13:30-



【講義】まちのツボのデザイン

14:00-



コンセプトメイキング・デザインスタディ

18:30-



エスキス

-21:00



エスキスの振り返り

8/31 -Day.3-



【講義】そこにあるものと繋がる

10:00-



デザインスタディ



現地でもデザインスタディ

15:30-



エスキス

-21:00



デザインスタディ

9/1 -Day.4-



提案模型・プレゼン準備

13:00-



講評会



最終発表



模型・平面図・断面図・パース等で説明

16:00-



授賞式・総評



評価の視点

- ◇都市における広場のあり方・・・熊本のまちにおける対象広場の役割がよく考察されていて、それに対応した空間デザインや運営イメージが提案されているか
- ◇デザインの地域性、魅力・・・熊本のまちにふさわしい魅力的なデザインが提案されているか
- ◇提案の新規性、独創性・・・公共空間の現状を打破するような新しい、チャレンジングな提案がされているか
- ◇プレゼンテーションの質・・・時間内に、わかりやすく、自分たちの提案を伝えることができたか
計画図や模型がわかりやすくつくられているか



groupA

風研講師賞

高低差と軸の交差を活かした「上がり框と式台」

伊藤慎吾（愛媛大学都市・地域デザイン研究室 M2）
野元優理（久留米工業大学建築・設備工学科 B2）
三木歩嵩（熊本大学景観デザイン研究室 M1）
桐原涼（株式会社オリエンタルコンサルタンツ）

対象地の読み解き

熊本城の入口かつ移動しながら見えるエリアの終点

ビジョン

まちに格式を引き込む熊本城の玄関口

デザイン方針

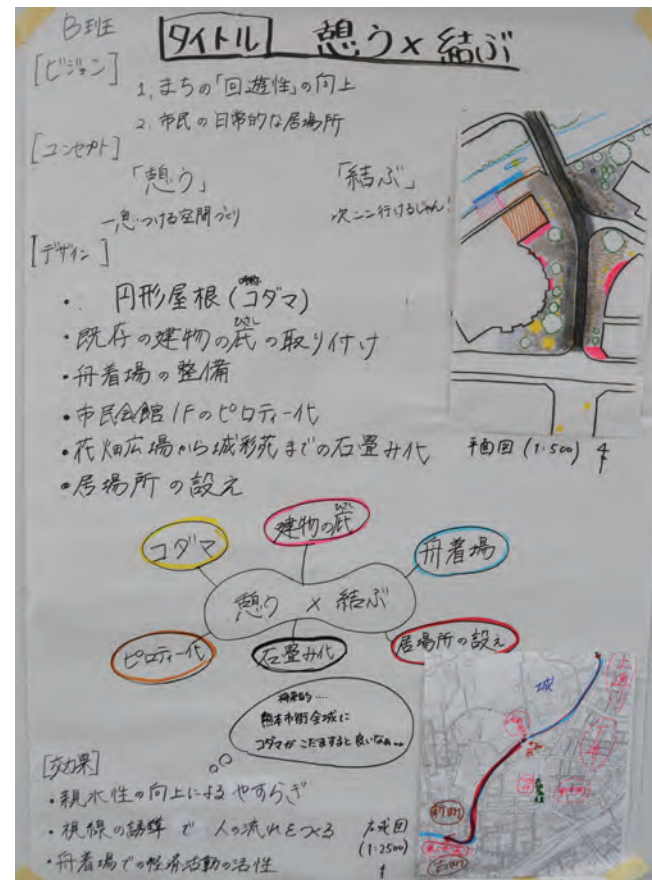
高低差を上がり框として捉え、軸の交差を顔に。観光客を出迎える式台に



groupB

憩う × 結ぶ

生方翔也（新潟工科大学都市計画研究室 M2）
周曉新（多摩美術大学吉村研究室 M2）
太田隈美歩（熊本大学地域風土計画研究室 B4）
夕田潤（早稲田大学景観・デザイン研究室 M1）
松岡沙生（アクセント株式会社）



対象地の読み解き

歩行の連続性のわかりにくく、交通量は
あるものの滞留行動が生まれない空間

ビジョン

回遊性向上、市民の日常的な居場所へ

デザイン方針

円形屋根や庇設置による人流創出。
船着場整備による親水性向上・経済活性化



groupC

大広間の舞台袖

小侯慎太郎（九州大学建設都市工学コース B3）
近藤沙紀（横浜国立大学都市計画研究室 M2）
朴相琥（東京大学景観研究室 M1）
福井新（法政大学景観研究室 M1）
矢ヶ井那津（一般財団法人たらぎまちづくり推進機構）

対象地の読み解き

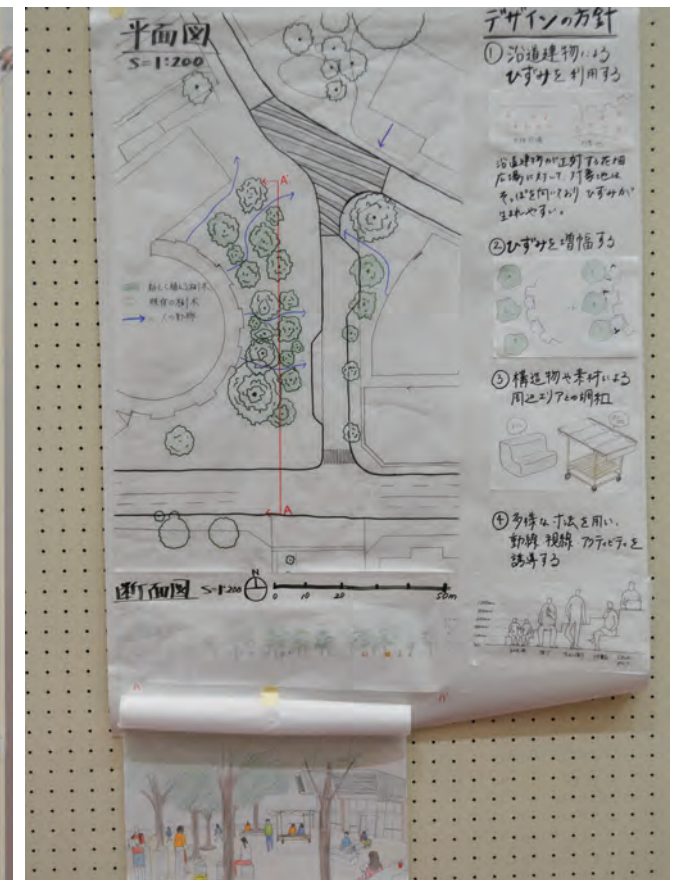
周囲がオンな場所に対して、
対象地はオフな空間

ビジョン

ここで過ごすことで1日が気持ち良く

デザイン方針

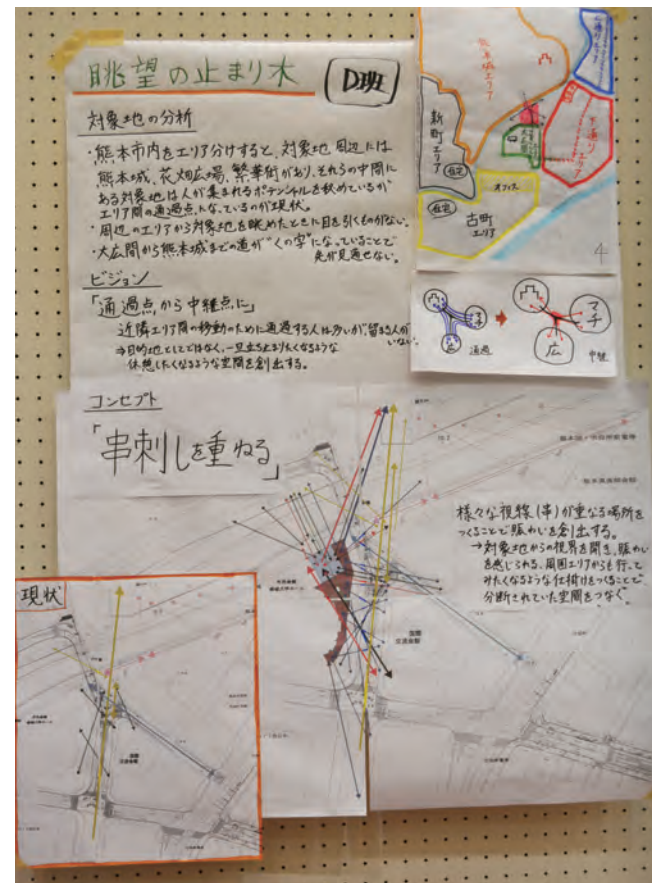
沿道建物のひずみを利用・増幅し、
周辺との調和＆動線・視線の多様化



groupD

「串を刺す」「串刺しを重ねる」

志水健一郎（九州大学芸術工学部緑地保全学研究室 D）
南部七音（高知工科大学建築・都市デザイン専攻 B4）
豊丹生拓真（長崎大学環境計画研究室 M1）
柳田壮真（中央コンサルタンツ株式会社）



対象地の読み解き

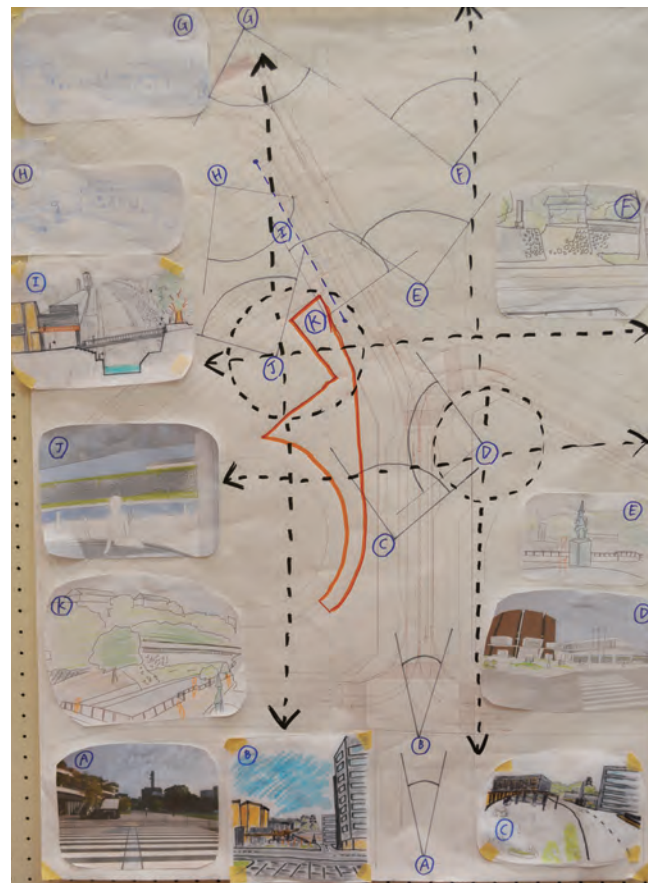
立ち止まる人の少なさ。くの字状道路による先の不透明性。樹木による特徴的景観の阻害

ビジョン

通過点から中継点に

デザイン方針

景色を開くことで立寄・賑わい・景色への
気づき促進。風景の切り換わり地点へ



groupE

ゲスト講師賞・熊本市役所賞

川とまちを繋ぐ縁側

金偉地（多摩美術大学吉村純一研究室 M2）
菅嶋瑛美（熊本大学田中智之研究室 B4）
田中颯太（国士舘大学西村亮彦都市景観研究室 M1）
山口拓巳（福岡大学景観まちづくり研究室 B4）
山野裕智（諫早市役所）

対象地の読み解き

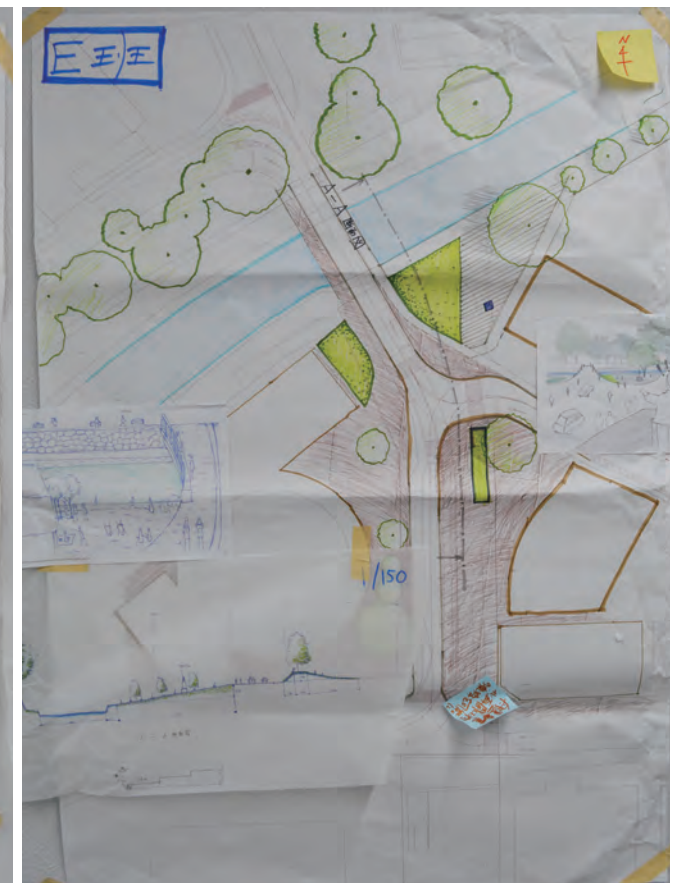
古町、上通り、坪井川周辺で帯状の
多様な心地よさが生じており、その結節点

ビジョン

ここちよさの水源（みなもと）から広がる

デザイン方針

坪井川沿いの心地よいベルトをつなげ、まち
へひっぱり、広げる。川を望む視点場づくり





A 班



伊藤 慎吾

(愛媛大学 理工学研究科 都市・地域デザイン研究室)

来年から建コンで働くことが決まっているが、そこで行うことを計画や設計など抽象的な言葉でしか理解しておらず、実際にそれを経験したいと感じていた。実際にシャレットに参加し、自分の大学では教えてくれないこと・できない経験をすることができた。講師の方のお話や班員の意見に、多くの刺激を受けた。意見を折衷することを考えていたが簡単ではなく、土木デザインの難しさを痛感するとともに、成長し続けたいと感じた。成長のきっかけを頂けた講師の方々や運営の方々、ともに切磋琢磨したシャレットの参加メンバーに感謝する。



野元 優理

(久留米工業大学 工学部 建築・設備工学科)

建築という分野で今回参加させていただきましたが、私の勉強不足と分野の違いからメンバーや講師の先生方の言葉の定義が分からないという所からスタートしました。しかし、街歩きの際の先生方の着眼点や花畑広場に対する思いや考えというものが大変面白く、グループ内でフィードバックした際にも各々の意識している点が異なり、それが最終課題にも生かされたと感じています。最終的には風研講師賞をいただくことができましたが、表彰式の直前までそのことは頭になく、いい意味でひたすら熊本の地に溺れた4日間だったなと感じました。



三木 歩嵩

(熊本大学大学院 景観デザイン研究室)

設計演習と講師陣によるレクチャーが交互に行われたことで、多様な視点をもって演習に取り組むことができました。演習では、限られた時間の中で、班の意見をまとめ1つの提案にしていく難しさを感じました。しかし、講師の手を借りながら模型や図面でスタディしていくことで、各班員の思考が共有され、提案へと展開していきました。こうした4日間の経験を通して、インプットとアウトプットを繰り返すこと、自己の思考整理だけでなくコミュニケーションツールとしてスタディが意味を持つことの2つを特に学ぶことができました。



桐原 涼

(株式会社オリエンタルコンサルタンツ)

まずはこのシャレットを運営してくださった方々に、深く感謝申し上げます。四日間という短い期間の中で最大限の成果を生むことができたのは、講師の方々やスタッフの皆様が最高の環境を用意してくださったからこそでした。大学の中でも、実務の中でもこの密度でデザインに向き合える機会はないと思っています。私自身がこの経験を最大限に活かしていくと共に、未来の後輩たちのためにもシャレットが受け継がれて欲しいと強く願っております。

B 班



生方 翔也

(新潟工科大学 工学研究科 建築・都市環境グループ 都市計画研究室)

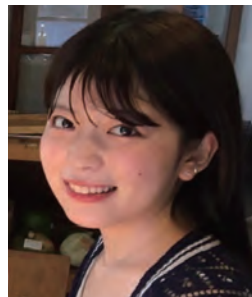
講義内容が新鮮なものばかりで多くのことを学ばせていただきました。また普段聞われない他分野の方との議論を通して、建築とはわずかに異なった価値観や考え方に興味深く感じる一方、他分野同士のイメージ共有がより一層難しいことを痛感しました。場の読み取りからデザイン提案までを行う非常にボリュームのある内容を4日間というコンパクトな期間で集中的に行ったことは、研究生活が惰性的に続いていた私にとって非常に刺激的な4日間となりました。



周 暁新

(多摩美術大学 吉村研究室)

私は今回のシャレットを通じて、熊本の江戸時代からの姿と現代都市の対比をしながら、たくさんの刺激をいただきました。このような珍しい機会に参加させていただけることに、大変喜ばしく感じました。今回の「城下町くまもとのツボをデザインする」のテーマに関しては、非常に奥深く感じました。現代に引き継がれてきた熊本城とその周辺の「まちの大広間」との関係は元々から難しく、その上にウォークラブルな空間と市民の日常的な居場所の創出を提案させていただきました。今回はただの提案だけではなく、熊本にしかない歴史とにぎわいの引き立て、またはまちの「回遊性」の向上を心から期待しています。城下町の風情を持つ熊本市なら、私たち設計の力だけではなく、土木、行政、まちづくりなど様々な分野の努力が必要ではありますが、きっとまちの個性を残し続けながら新たな活力が生まれてくると思います。



太田 隈 美歩

(熊本大学 地域風土計画研究室)

4日間、講師やスタッフの方々、一緒に学んだ皆さんありがとうございました。初めて会う方たちと、たくさん意見を出し合って、生まれ育った熊本についてもっと深く学ぶことができてよかったです。また、講師の方々のエスキスや講義では、デザインへの様々な学びを得ることができて、他にはない経験となりました。4日間を通してやはり自分はこういうお仕事をしていきたいと考えました。私は大学院にも進みますが、今後も勉強していきたいと思います。



夕田 潤

(早稲田大学 景観・デザイン研究室)

賞に選ばれず悔しかったのですが、対象地と作業場を何度も往復し、意見のぶつかり合いから提案の方向性を探し、必死にアウトプットして、フィードバックに頭を悩ませる、その一連の過程がとにかく楽しかったです。異なる分野を学ぶ人たちが組んだグループワークだからこそ得られる発見や知見も、自分にとってかなり有意義なものでした。参加者の皆さんとの絆も、とても4日間では築けないほどに強固なものだと思うので、またどこかで会って、語り合える日を心待ちにしています。参加者の皆さん、スタッフの方々、先生方、本当にありがとうございました。



松岡 沙生

(アクセンチュア株式会社)

創造力と統合力を鍛えられ、また好奇心が高まり時間を忘れた4日間でした。「チャームポイントという視点でまちをみる」という助言から、たくさんの気づきがありました。ゼロからではなく、せっかく〇〇なのに、もったいない！と感じるところから創造してみることで場に根付いた景観が生まれるのだと感じました。その他に、まちをみる着眼点、創り上げていくプロセス、多様なバックグラウンドの仲間たちと1つのカタチにすることを学ぶことができました。これからも描き、学び続けていたいと思います。皆さん、本当にありがとうございました。

C 班

**小俣 慎太郎**

(九州大学 工学部 地球環境工学科 建設都市工学コース)

濃密な4日間でした。長く継続して観察だった昨年のシャレットとは違い、今回は観察して、提案するまでがたったの4日間でもとてもハードだった。時間のなかでの作業や提案の検討はとてもいい経験になった。今回シャレットを通して、自分の力不足を感じた。もっとランドスケープについて学びたいと思った。また、自分の考えを言葉にすることが苦手であると改めて感じたので、改善できるように頑張りたい。今後は他のワークショップにも参加するなどして、そのような力をつけたい。4日間ありがとうございました。

**近藤 沙紀**

(横浜国立大学大学院 都市イノベーション学府建築都市文化専攻 都市計画研究室)

今回のシャレットが私にとっての熊本初来訪であり、会場に到着するまで期待と不安でいっぱいでしたが、温かい野次を飛ばし合う先生方、作業の様子を見に来て場を和ませたり困ったときにすぐに対応してくださるスタッフの方々に囲まれて、4日間学ぶことができ、大変幸せでした。先生方から多くのことを学んだのはもちろんのこと、参加メンバーの着眼点や提案の魅せ方にも感服すると同時に悔しく思う場面ばかりでした。今回学んだこと・感じたことを忘れずに、挑戦していきたいと思います。来年またリベンジします！

**朴 相琬**

(東京大学大学院 社会基盤学専攻 景観研究室)

今回のシャレットで良かった点は、やはり多様なバックグラウンドを持つグループのメンバーと議論する中で、自分一人では全く見当がつかなかった視点に触れることができた点にあると思う。対象地での過ごし方であったり、熊本城の新たな視点場であったり、終始新たな発見があって常に新鮮な気持ちで参加していた。そうした議論の成果が模型として形になった時の感動もまた一入だった。参加するまで忘れていた空間デザインの楽しさに気づくことのできた貴重な機会だったと思う。来年もさらに研鑽を積んだ上で参加したい。

**福井 新**

(法政大学大学院 デザイン工学研究科都市環境デザイン工学専攻／福井恒明研究室 兼 渡邊竜一研究室)

これまで私は、チームで演習課題に取り組んだ経験がなかったため、この九州デザインシャレットが初めてでした。この4日間、チーム内での自分の役割を見つけることや目的意識を共有することなど、課題に対する能力だけではないチームで取り組むからこそ必要な力が常に求められました。私にとって、こうした面で非常に効果あるトレーニングの機会となりましたし、未熟な私でも班員の皆さんに支えられてゴールまで走り抜けられたという自信に繋がる経験とチームの大切さを知る良い経験になりました。参加できたこと大変嬉しく思います。

**矢ヶ井 那津**

(一般財団法人たらぎまちづくり推進機構／熊本大学大学院 地域風土計画研究室)

昨年度のオンライン版のシャレットを経て、対面で協力し模型として形にすることもやってみたいと思い参加しました。分野の異なる班員同士で意見がまとまらないことやアイデアが分散することもあり、決断力や実行力の重要性を改めて実感したことは社会人としても得難い経験となりました。その過程で時には講師の方からアドバイスもいただき、最終的に現場で聞き取った小さな声から班員同士でぶつけ合ったアイデアが形になった瞬間は達成感がありました。他班からも刺激をもらいお金では買えない経験ができました。ありがとうございました。

D 班

**志水 健一郎**

(九州大学 芸術工学府 朝廣研究室)

非常に充実した4日間でした。まちのデザインに至るまでのプロセスに関して、まちをどう読み解き、ヴィジョンやコンセプトをどう積み上げていくかを丁寧に学ぶことができました。講義やエスキス以外にも、アイデアが煮詰まった時やちょっとした疑問が浮かんだ時にもすぐに講師陣が相談に乗ってくださり、多様な角度からアドバイスをもらえたことが大きかったです。また、様々な専門性を持つ学生や社会人と一緒にグループワークできたこともとても刺激的でした。短い期間でしたが、先生方、スタッフの皆さん、参加者の皆さん、本当に有難うございました。

**南部 七音**

(高知工科大学 建築・都市デザイン専攻)

同年代の学生や社会人の方とたくさん討論しながらまちづくりについて1から学ぶ機会となり、とても価値のある4日間を過ごすことができました。特に発表では、同世代の人達が自分の意見を的確に発言している姿や、自分達の班とは違った切り口から考えられたデザイン案を聞いて、新しい知識や学びを発見でき、また、自分もこんな風になりたいと刺激を受けました。今回の合宿で、何気なく通りすぎていた場所や立ち止まってしまう場所はなぜそうなのか、よく見て考え、歴史を知るとわかるまちを読み解く視点について勉強できて良かったです。

**豊丹生 拓真**

(長崎大学 工学研究科社会環境デザイン工学コース 環境計画研究室)

4日間という限られた時間の中で「何を、どのようにデザインするのか」を考えることはとても難しかったです。しかし、作業の中で先生方から頂いたアドバイスや、普段は関わることもないような分野のメンバーの意見や考え方からとても多くの学びと刺激を得ることができました。また、講師の先生方の講義は非常に面白かったです。普段何気なく利用している空間には多くの工夫や仕掛けが施されていることがわかり、とても勉強になりました。講師の皆様、運営スタッフの皆様、参加者の皆様、4日間ありがとうございました！

**柳田 壮真**

(中央コンサルタンツ株式会社)

コンセプトメイキングからプレゼンまでを通して行うことで、自分の得意なこと、苦手なことを知ることができました。今後の自己研鑽に役立てたいと思います。また、参加者が同じ場所に集まったことで、たくさんの人とお話することができたこともとても良かったです。他の班の中でどのような議論がされたのかを聴くことでよりデザインの意図を理解することができました。講師の方はもちろん、参加者とお話からもたくさん学びがありました。応募して本当に良かったです。

E 班



金 偉地

(多摩美術大学 環境デザイン学科 吉村研究室)

限られた時間内で、どれくらいできるかの練習として、四日間のワークショップに挑戦しました。うちのチームは「心地よいベルト」というコンセプトをしっかりと掴んで、人々が川へのまなざしに入り込んで、水辺のデザインを行いました。川が見えるように、護岸をゆるやかに下げるという大胆な提案ですけど、みんなの努力でやっと完成させて、すっごく達成感が出てきます。言葉が通じなくても、ディスカッションに入れさせていたメンバーたちはとってもやさしいし、チームワークが順調に進められて、いい経験でした！



菅嶋 瑛美

(熊本大学 工学部土木建築学科 建築学教育プログラム 田中智之研究室)

自分は建築分野の田中研代表で幸運にも今回参加することができ、さらに自分の所属する E 班でゲスト講師賞と熊本市役所賞を受賞できて、本当にかけがえのない思い出をこのシャレットからいただきました。地球の裏側を見たような、分野外の全く異なる視点や考え方に触れられたこと、それが全プログラムを経ての一番の財産です。これを機に土木(景観)分野メインの WS にも積極的に参加し、狭い分野に固執せず柔軟な考えをもてる自分になれるよう頑張っていく所存です。長いようで短い濃密な 4 日間、本当にありがとうございました。



田中 颯太

(国土舘大学大学院 工学研究科 建設工学 まちづくり環境 西村亮彦都市景観研究室)

元々は顔も名前も知らない、立場も年齢も得意分野もバラバラの 5人でチームとなって、激しく議論出来て非常に楽しかったです。さらに、4日間全力で走り切った結果、3 つある内の 2 つの賞を頂けて、これ以上幸せな事はありません。成果物に関しては、自然に目を向けて、地形を操作しながら、今あるモノを最大限よく見せるという、ドボクの醍醐味ともいえる提案で高い評価を頂けたことが嬉しかったですし、ドボクっていいな、楽しいな、この世界に入ってよかったなと思い、泣きそうになりました。とても充実した 4日間になりました。講師やスタッフの方々、一緒に参加した皆様、本当にありがとうございました。



山口 拓巳

(福岡大学 工学部 社会デザイン工学科 景観まちづくり研究室)

シャレットへの参加にあたって、不安もありましたが、多くの方々に支えられ最後まで走り抜くことができました。班のみんなで議論し、班員それぞれが得意を出しあい、ときには講師の皆様の知恵をお借りし、ゴールを目指す。叡智を結集した一つの成果物を生み出すということが、こんなにも心躍るものなのだと実感しました。このような「心躍る感覚」が僕にとってのかけがえのない体験であり、大きな成長に繋がりました。あの場に集った皆様なくしては成し得なかった成長であり、感謝が尽きません。本当にありがとうございました。



山野 裕智

(諫早市役所)

シャレットの翌日から自分の職場に帰り、日常の仕事に従事する毎日ですが、自分の中にはまだシャレットの熱い余韻が残っています。素晴らしい4日間にできたのはE班のメンバーだけではなく、講師陣とスタッフの皆様、そして他の班の皆さんと競うように切磋琢磨し、設計課題に向き合ったからだと思います。社会人だからこそ学び続ける姿勢が大切であり、この豊かな時間を活用することが自分自身のシャレットから持ち帰った宿題だと思います。ありがとうございました！

学会発表

九州デザインシャレット 2022 in 熊本市の実施後には、12 月 9～11 日に岐阜大学で開催された第 18 回土木学会景観・デザイン研究発表会にてポスター発表を行いました。



九州デザインシャレット2022報告書

主催:風景デザイン研究会
info@fukei-design.jp

協力:熊本市

発行:2022年11月

表/裏表紙デザイン:池田隆太郎[福岡大学]

問い合わせ先:高尾忠志
[(一財)地域力創造デザインセンター]
takaotadashi@icloud.com

